

米軍無人機「MQ-9」の一時展開が開始されました

東シナ海を中心とする日本周辺海域における情報収集活動のため、海上自衛隊鹿屋航空基地において米軍無人機「MQ-9」の一時展開が11月21日に開始されました。

問 市政策推進課 ☎0994-31-1125

デモフライトの実施

11月5日、海上自衛隊鹿屋航空基地でMQ-9のデモフライトが実施されました。これは、以前から市が国に要望していたものです。

当日は、塩田県知事や市長をはじめ、県と市の関係者、市議会議員、基地周辺町内会長を含む基地関係連絡協議会委員、報道関係者などが参加しました。基地内にはMQ-9が2機用意され、1機は地上展示、もう1機は基地の西側に向けて離陸し、反時計回りに基地周辺上空を2周し着陸しました。

部隊を率いるケリー司令官は冒頭の挨拶で「インド太平洋地域の安全保障環境の厳しさが増す中、今回のMQ-9の展開は、日米の平和と発展を維持するために

場所	MQ-9	KC-130 (H27測定)	P-3C (H27測定)
野里町	65.2dB (1回目) 66.9dB (2回目)	79dB	80dB
川東町	72.0dB (1回目) 69.1dB (2回目)	82dB	82dB

▲MQ-9デモフライト時の騒音測定結果
※dB (デシベル)：音の強さの単位

行うものである」と説明。また、部隊の隊員については「三沢、嘉手納、横田基地など日本国内の基地のほか、グアム、ハワイ、アラスカ、ネバダなどの基地からも、この任務に参加するため集まってきた」と述べました。

なお、市ではこれに併せて騒音測定を実施。その結果、自衛隊のP-3C哨戒機やKC-130空中給油機よりも低い騒音レベルであることが分かりました。

安全安心の確保に向けて

市では、これまで米軍及び国に対し安全・安心対策の徹底を要請してきたところですが、11月18日、米軍関係者の運転する乗用車がスクーターと接触する事故が発生しました。このような事故が起こったことは極めて遺憾であります。

これを受け市では、MQ-9部隊のケリー司令官に対し直接遺憾の意を伝えるとともに、相手方への誠意ある対応と、今後の隊員の指導の徹底及び具体的な事故防止対策を講じることを求めました。

8月以降の経過

- 8月1日 九州防衛局鹿屋現地連絡所を開設
市・県が相談窓口を開設
- 8月3日 準備作業のため米軍関係者が順次鹿屋入り
- 8月4日 ジェームス・B・ウェロンス在日米軍副司令官が来庁
- 9月20日 無人機運用部隊の要員が順次鹿屋入り
- 10月3日 MQ-9本体を含む各種機材が順次搬入される
- 10月7日 MQ-9運用部隊司令官アレクサンダー・ケリー空軍中佐が来庁
- 10月23日 MQ-9運用部隊「第319遠征偵察中隊」発足式
- 11月2日 MQ-9の状況を確認するための飛行を開始
- 11月5日 関係者向けデモフライトの実施
- 11月21日 一時展開開始



海上自衛隊鹿屋航空基地に一時展開する「第319遠征偵察中隊」は、無人機MQ-9を用いた周辺海域の情報収集を1年間行う。基地内に約150～200人を機体操作や整備、後方支援要員として配置。

鹿屋航空基地外の宿泊施設に滞在し、勤務時間外や休暇中は米軍が設ける指針によって行動する。

無人機「MQ-9」の概要

- 製造：ジェネラル・アトミックス・エアロノーティカル・システムズ社
- 翼幅：20.1m ■長さ：11m ■高さ：3.8m ■重さ：2,223kg
- 速度：巡航速度約370km/h
- 運用開始：2007年10月 ■現総機数：合計280機
- 価格：5,650万ドル (2011年度、センサー付航空機×4、地上管制室、衛星通信デバイス含む)
- 運用 海上自衛隊鹿屋航空基地で運用されるMQ-9は、情報収集を目的として運用される。人間は直接搭乗せず、離着陸時には鹿屋航空基地で操作し、それ以外はアメリカ本国から通信衛星を介して遠隔操作を行う。